

全国学力・学習状況調査より

山手小教務主任 高橋 あゆみ

今年度の全国学力・学習状況調査（全国の6年生が4/18に実施）の結果を受け、山手小の子ども達がこれから大切にしていけるとよいこと、必要とされる力について、考えました。この調査では、国語・算数の学習状況の確認と共に、生活の様子や家庭での学習についてのアンケート（児童質問）も実施されました。

本調査の問題文の一部と合わせ、これから学校の授業で取り組んでいくこと・家庭で大切にしていけるとよいことについてお伝えします。

《国語》



《メモから文章を書く力》

左の問題は、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫することができるかどうかを問うものです。

大問の初めには、学校のよさを書き記したメモが示され、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを整理し、本問題に繋がっています。それを受け、条件に合わせて文章に表すことが求められているのが本問題となります。

このような「文章を書く」問題は、全国的に正答率が低かったのですが、山手小の子ども達は、特に苦手であるということが、結果から明らかになりました。示された情報をもとに書くことや、一定の条件の下で書くこと、文章で表現することについて、慣れ親しむことが大切であると考えられます。

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の [] に、「高山さんの取材メモ」をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、 [] に入る内容をどのように書きますか。その条件に合わせて書きましょう。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アさようごの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるころだと思えます。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイ上げるようにしています。

[]

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする
- ドッジボール 上級生は遠くからボールをあげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであれしかった

（条件）

- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- 「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

〈今後の学習では〉

学校の授業で大切にしていけること

☆「書く」ことに慣れるために、自分の考えを文章で表現する場面を、意図的に設定します。また、文字数や使う言葉（つなぎ言葉やキーワード等）を示し、条件の下で「書く」活動を継続的に行います。

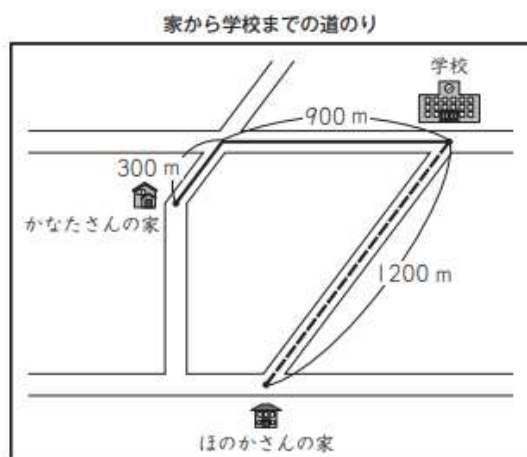
☆「書く」ためには、自分の考えを明確にすることが必要です。文章や言葉を挿絵や資料と結び付けながら、順序立ててまとめる等、思考力を高める場を、大切にしていきます。

家庭で大切にできるとよいこと

☆「書く」ことは表現の方法の一つです。頭に浮かぶ内容を言語化し、『自分の考え』としてアウトプットするためには、様々な言葉の使い方を知ることが大切です。ご家庭でも、豊かな表現について、また正しい日本語の使い方について、日ごろから意識し、話題にしていただけるとよいと思います。

《算数》

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

《答えの根拠を説明する力》

左の問題は、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを問うものです。

正答の条件は、(A)「道のりが等しいこと、かかった時間を基に、わけを書いている」または(B)「かなたさんとほのかさんのそれぞれの歩く速さを基に、わけを書いている」となります。(A)については、二人が歩いた道のりが等しいこと、かかった時間の違い、のどちらも表記する必要があります。(B)も同様に、二人それぞれの速さを基に、わけを記す必要があります。どちらかが欠けていては、正しい答えとはなりません。

計算から答えを導き出すだけでなく、記述を求められる問題に対して、正答率が低かったと同時に、無回答もあり、山手小の子ども達の苦手が見えてきました。

〈今後の学習では〉

学校の授業で大切にしていること

☆式や答えの発表で終わることなく、その考えの根拠を、「話す」「書く」方法で、表現する場を大切にします。

☆考えの根拠や活用されている場面について多面的に捉えられるようにするために、既習内容(学年や教科に関わらず)と繋げて考えられるよう、特に単元の導入や終末において、本時の内容に留まらず幅広く活用することも話題にしていきます。



家庭で大切にできるとよいこと

☆数字や図形について、普段から興味をもてるような会話をしたり、生活の中に隠れている算数について「これ、どういうことか教えて」「説明してみよう!」と、子どもが話せる場を作っていたりすることも大切です。「(ピザなど)○等分してみんなで分けよう!」これだけでも、大切な“生活の中の算数”です。

《児童への質問》

☆平日に、ゲームやSNS、動画視聴を行う時間について問う質問がありました。山手小の6年生は、県や全国の平均と比べると、全体的に、それらに触れている時間が短いことが分かりました。様々な結果から、学習以外のスマートフォン等の使用頻度が高い児童生徒は、学力も定着しづらいとの分析がされています。ゲーム機やスマートフォン等の使い方(場所や時間について)の家庭での約束をつくり、それをしっかりと守らせることが、学力の定着にも大きく関わることを、今後も意識していただけるとよいと思います。

☆睡眠時間の確保…睡眠は、集中力の向上につながります。規則正しい生活は今後も大切にしてください。

☆家庭学習…休日だからこそ取り組める学習や家族と一緒に学ぶ場は、子ども達の意欲を育みます。学校の授業や家で机に向かう時間だけでなく、幅広い学習の在り方について、学校・家庭が共に考えていく必要性を改めて感じました。